



日本語検定

総合問題

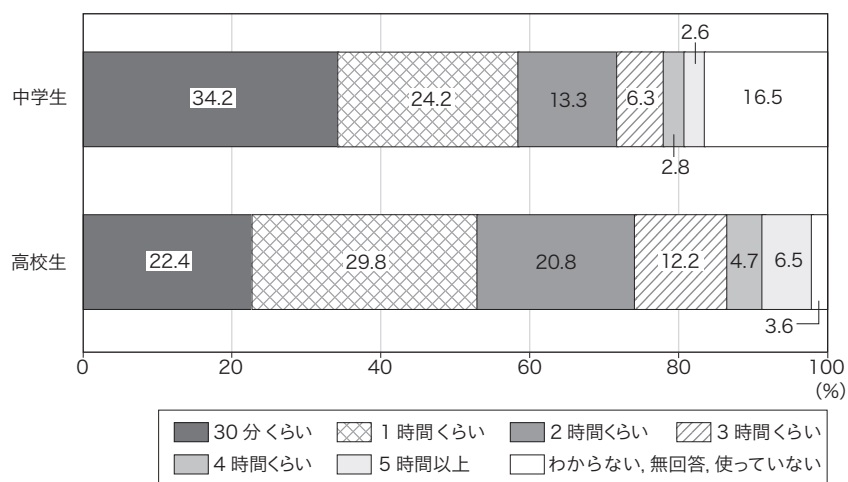
4

級

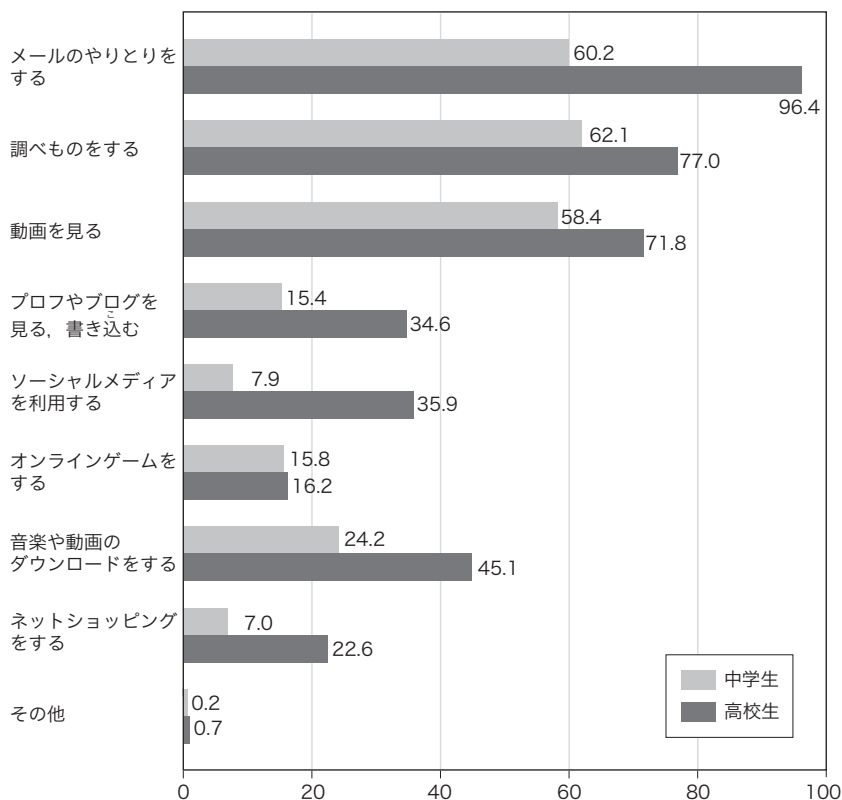
問1

次の文章は、中学生・高校生のインターネット利用についての調査結果を見て、Aさんが書いたものです。この文章について、後の質問に番号で答えてください。

〈図表1〉 インターネットの1日の利用時間



〈図表2〉 インターネットの利用内容



*資料：NHK放送文化研究所「中学生・高校生の生活と意識調査2012」

図表1は、中学生と高校生に、インターネットの1日の「利用時間」（メールのやりとりを含む）を、「30分くらい」から「5時間以上」まで6つの区分を示してたずねた結果である。

最も多かったのは、中学生が「30分くらい」、高校生が「1時間くらい」である。この利用時間が短いほうの2つの区分を合わせると、中学生は約58%、高校生は約52%になり、ともに半数を超えている。残りの4つの区分を見ると、「2時間くらい」「3時間くらい」「4時間くらい」「5時間以上」のいずれにおいても、中学生より高校生のほうが利用者の割合が高い。また、この4つの区分を合わせると、中学生は25%、高校生は約44%になり、（ア）ことは明らかである。

図表2は、インターネットの「利用内容」について、8項目を示して複数回答を前提にたずねた結果である。中学生で最も多かったのは「調べものをする」で、「メールのやりとりをする」「動画を見る」が続く。高校生で最も多かったのは「メールのやりとりをする」で、「調べものをする」「動画を見る」と続いている。そして、この3項目のみならず、すべての項目において中学生より高校生の割合が高くなっている。この結果は、高校生のほうが中学生よりもインターネットの利用が「多岐にわたっている」ことを裏付けていると言えよう。

ところで、「利用内容」は、「調べものをする」を除くと大きく二種類に分けられそうだ。「動画を見る」「オンラインゲームをする」「音楽や動画のダウンロードをする」「ネットショッピングをする」は、主に自分の趣味や娯楽のための利用と言える。残りの「メールのやりとりをする」「ブログ（自己紹介サイト）やブログを見る」「書き込む」「ソーシャルメディアを利用する」は、（ウ）として利用していると考えられる。

どちらも高校生になると割合が増えているが、特に後者の増加が目立ち、（エ）。実際に会って言葉を交わさなくても、インターネットを通じて（オ）の場を広げている高校生像を、そこにかいま見ることができる。

- | | | | | |
|---|--|--|--|---|
| <p>五</p> <p>オに入る言葉として、最も適切なものはどれでしょうか。</p> <p>1 交換 2 交流 3 交渉 4 交易</p> | <p>四</p> <p>エに入る言い方として、最も適切なものはどれでしょうか。</p> <p>1 「ソーシャルメディアを利用する」は「ブログやブログを見る、書き込む」に次ぐ、大きな増加を示している</p> <p>2 「ソーシャルメディアを利用する」は中学生の四倍以上になっている</p> <p>3 「メールのやりとりをする」は中学生の二倍以上になっている</p> <p>4 「ネットショッピングをする」は中学生の三倍以上になっている</p> | <p>三</p> <p>ウに入る言い方として、最も適切なものはどれでしょうか。</p> <p>1 コミュニケーションの手段 2 思考の手段</p> <p>3 学習の手段 4 自立の手段</p> | <p>二</p> <p>イの意味として、最も適切なものはどれでしょうか。</p> <p>1 複雑になっている 2 多すぎる</p> <p>3 多方面に分かれている 4 専門的である</p> | <p>一</p> <p>アに入る言い方として、最も適切なものはどれでしょうか。</p> <p>1 すべての区分において、中学生より高校生のほうが割合が高い</p> <p>2 中学生より高校生のほうがインターネットを長い時間利用する者が多い</p> <p>3 高校生の半数以上がインターネットを長い時間利用している</p> <p>4 中学生・高校生とも、利用時間が増えるにつれて割合が低くなる</p> |
|---|--|--|--|---|

問2

次の文章は、中学三年生の土居さんが、「山中教授、ノーベル賞受賞」の新聞記事を読んで書いたものです。この文章について、後の質問に答えてください。

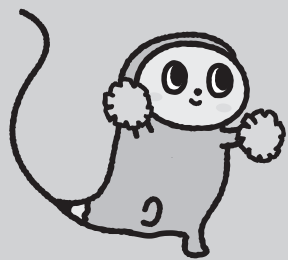
先日、ノーベル医学・生理学賞を京都大学の山中伸弥教授が受賞したという記事を読みました。山中教授の（ア）は「iPS細胞（人工多能性幹細胞）」を作ったことであり、このことが高く評価されて受賞に至ったそうです。記事には、「iPS細胞」の説明が分かりやすく書いてありました。

人間の体は約六十兆個の細胞でできていますが、それらはすべて、父親の精子と母親の卵子が結合してできた受精卵という、たった一個の細胞から分裂したものです。この受精卵が母親の胎内で成長していくわけです。細胞分裂を何度も繰り返して、脳や心臓、肺、胃、腸、皮膚、イキンニクなどが形作られていきます。そして、少しずつ赤ちゃんに育っていきます。

（ウ）、脳や心臓をはじめとして、一度役割が決まった細胞は決してほかの役割をもった細胞になることはなく、それができる細胞は受精卵だけだと言われていました。しかし、山中教授は実験用のネズミに四種類の遺伝子を組み込むことにより、さまざまな細胞に育つ受精卵のような細胞ができることを発見しました。この受精卵のような細胞が「iPS細胞」です。山中教授は、人間の皮膚から「iPS細胞」を作ること、世界で初めて成功したそうです。

これによって、新しい薬の開発や病気の原因の解明が進むと言われています。さらに、安全性が確保されれば、心臓や肝臓、肺などの臓器が病気などで悪くなった場合、本人の「iPS細胞」から作った臓器を移植することもできるようになりますと考えられています。そうなれば、病気やけがで傷ついたり失ったところを元通りにする「再生医療」に役立つと期待されています。

私は、この記事を読んで、人間の体を元通りに再生できるようになるかもしれないと知って驚きました。それは、事故で手や足を失った人や病気で臓器を切除してしまった人にとっては、まさに朗報でしょう。今後、多くの人が助けられるのは喜ばしいことです。しかし、人間の体を再生できるということは、新しく人間を作り出せる可能性があるということです。これにないでしょうか。そう考えると、うれしい（エ）、それを悪用されるようなことがないか、少し心配にもなりました。



一 アに入る言葉として、最も適切なものを選んで、番号で答えてください。

- 「1 調査 2 功績 3 理論 4 行動」

二 イ「キンニク」を楷書の漢字で書いてください。

三 ウに入る言葉として、最も適切なものを選んで、番号で答えてください。

- 「1 当時は 2 これから 3 今では 4 かつては」

四 エに入る言葉として最も適切なものを選んで、番号で答えてください。

- 「1 裏面^{りめん} 2 側面 3 対面 4 反面」

五 1～4のうち、文章の内容と一致するものの一つを選んで、番号で答えてください。

- 1 iPS細胞は、細胞分裂を繰り返している途中の受精卵から作られる。
2 iPS細胞から作った臓器を移植するのは、危険なことである。
3 iPS細胞を使った再生医療のおかげで、病気などで切除してしまった多くの人々の臓器を元通りにすることができた。
4 iPS細胞とは、さまざまな臓器や組織になる可能性を持った受精卵のような細胞である。